

令和 6 (2024) 年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月 1日
氏名	池田 大輔
国文学科	教授
学科以外の兼務職	湖国カルチャーセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
古典文学講読Ⅰ	国文	1
古典文学講読Ⅱ	国文	1
文章表現	国文	1
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
ボランティア	国文	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	委員
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	委員
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	副委員長
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員長
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	担当

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ (無)
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援とを実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	<p>本学科のアドミッション・ポリシーに基づき入学してきた学生に対し、カリキュラム・ポリシーに従って、ディプロマ・ポリシーの達成実現へ向けた教育活動を行っていく。特に日本古典文学の授業を中心に担当しているので、学生には時代を超えて普遍的な価値を持つ言語表現について自覚させ、日本人のアイデンティティや人間の根本的な課題を探求する方法や機会を提示し、自己価値・判断力・言語化能力の涵養を目指す。その際に、発問や対話を重要視し、己の知識をもとに主体的思考を形成できるような授業展開を心がけていく。</p> <p>また、学生には日常的に自己の考え文章化することを課し、教員が添削、見直しすることで、誰もが納得できる言語化能力を習得できるよう指導していく。国文学科で学んだ社会人として、恥ずかしくない素養と言語力を発揮できるよう学生を導くことを心掛ける。</p> <p>少人数教育という特長を活かし、学生には日常的に挨拶や声かけを心がけ、学生との信頼関係を構築するとともに、体調や感情の変化に気が付けるように努める。昨年度より設けられた「スチューデントアワー」には、積極的に学生と関わりを持つようにすることで、学生が日常的に、何か相談事があったときに話しやすい関係の土台を築くよう努める。</p> <p>*本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、本学ホームページを参照してください。</p>

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>1.「日本古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1年） 授業は NHK 大河ドラマ「光る君へ」が紫式部を主人公ということで、『源氏物語』を取り上げた講義を行った。Google Classroom をプラットフォームとして、「講義資料」（欠席者用）、「講義動画」（事後確認用）、「課題（リアクションペーパー）」を毎回、授業内容として公開した。「リアクションペーパー」の中での意見は、次の授業冒頭で振り返りを兼ねて共有した。</p> <p>2.「基礎力プログラムⅢ・Ⅳ」における PBL 型授業（国文学科 2年） 通年科目で「地域伝承をもとにした地域活性化」を目標に、地域・行政と連携した地域課題解決型の活動を展開した。春学期に地域へフィールドワークを実施し、ヒアリングや実地調査、秋学期に調査内容をまとめ 10 分程度の動画を作成し、地域の方々を聴衆に視聴・意見交換会を実施した。活動に当たっては、1 グループ 4 人前後だったため、一人ひとりに主担当（フィールドワーク行程、写真撮影、文章作成、BGM など）を決めて活動することで、グループ内での役割と責任感を培うようにした。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>1.担任面談 1年生 4名、2年生 4名を担当。前期・後期の最初と最後に実施する担任面談では、1年生は大学生活への慣れ、定期試験への準備と感想など大学生活における不安要素の確認を中心に行った。2年生は、就職活動の進捗状況を中心に、相談やアドバイス等の支援を行った。</p> <p>2.スチューデントアワー 主に、体育館でバドミントンや卓球で国文学科だけではなく子ども学科の学生とも交流を深めた。秋学期は研究日と重なったため、春学期ほど学生と交流を持つ時間がなかった。</p>

	*誰でもいつでも、声を掛けられる雰囲気作りとして、在室中は研究室の扉を全開している。
--	--

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>1.「日本古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1 年） 授業アンケート結果からは、「ことばの豊かさを知り、日本人としての自覚を持てるようになる」という到達目標に対して、受講者の 9 割が達成できたと回答を得た。学生アンケートでは「説明がわかりやすく、授業の雰囲気も明るくておもしろかった。原文の文法的な説明がもう少ししていただければより理解が深まる」など高評価であった。</p> <p>2.「基礎力プログラムⅢ・Ⅳ」における PBL 型授業（国文学科 2 年） 授業アンケート結果からは、「探求の成果を、視覚資料として他者に伝えることができる」という到達目標に対して、受講者の 9 割が達成できたと回答を得た。動画という成果物を作り上げる目標と各自の役割を明確にしたことで、協働力やコミュニケーション力の向上がみられた。また、地域での学びと交流があったため地域愛の向上にも繋がった。地域の魅力を外部の人が知り、地域へ足を運ぶことで活性化へ繋がる動画の一般公開を予定していたが、声や顔を収録した学生が公開を望まない者もいたため、そういった点も最初から注意して作成するよう指導していく必要があったが、学生の学習効果はとても高いと評価できる。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>1.担任面談 遠方より通学する学生もいるが、1 年生は失単位する者もおらず無事に 1 年を終えることができた。2 年生は、無事全員が就職内定となった。</p> <p>2.チューデントアワー 日常的に声掛けできる、される状況を作ることができた。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	授業アンケートなどから、好評かを得ているので、引き続き「リアクションペーパー」や分かりやすい授業、評価のブラッシュアップを行って柔軟に対応実施していく。グループワークの需要に関しては、全員がコミュニケーションを取り合い、協働力を高められるよう目を配り、ファシリテートしていくよう心掛ける。
授業以外 (学生支援等)	担任面談では、引き続き学生の学生生活、就職の支援を行っていく。また、日ごろから学生の様子に目を配り、心地よい学生生活を送れるようサポートしていく。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した 2 項目）

教育活動	<p>学生は、将来国語教員や研究者を目指しているわけではないので、国文学科の教育目的である「社会で自立できる」ことを意識して日々の教育活動にあたった。特にグループ活動では、自分の考えを伝え、相手の意見も受け止め理解するコミュニケーション力と協働力が向上できるよう努めた。知識や教養も必要であるが、社会人となった際には、必ず他者との意思疎通が重要となってくる。</p> <p>また、成績評価も明確にし、日々のリアクションペーパーを活用して言語能力向上の指導にあたった。ゼミにおいては、源氏物語ミュージアム（宇治市）、公用車を活用して石山寺（大津市）、紫式部公園（越前市）へ引率し、フィールドワークも重視した。</p>
広報活動	<p>NHK 大河ドラマが紫式部を主人公で、研究の専門が平安文学ということもあり、大河ドラマを活用しながら、資料には毎回大学ロゴマークと大学の紹介をするなど、本学国文学科の広報活動に努めた。学内カルチャーにおいては、全 8 回実施し、参加者も 40 名と例年よりも多く、最終アンケートも高評価であった。また、学外講演会も滋賀県、福井県を中心に 16 回（大津市、守山市、近江八幡市、小浜市、美浜町、越前市）実施した。次年度もお願いしたいと複数の機関からの依頼があり、参加者、担当者からの評価は悪くはなかったと思われる。また、NHK（大津放送局）による学生と源氏物語の取材と放送もあった。広報活動は、受験者増には繋がらなかったかもしれないが、大学認知には寄与できたと思う。</p>

7. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和 6(2024)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上